

項目	内容
名称	キャベツ [英]Cabbage [学名]Brassica oleracea、Brassica oleracea var. capitata.
概要	キャベツは、ヨーロッパ北西部原産のアブラナ科の多年生草本。日本には明治初期に渡来し、食用とされている。
法規・制度	<p>■ <b>食薬区分</b></p> <p>「専ら医薬品として使用される成分本質（原材料）」にも「医薬品的効能効果を標ぼうしない限り医薬品と判断しない成分本質（原材料）」にも該当しない。</p> <p>■ <b>特定保健用食品</b></p> <p>・ブロッコリー・キャベツ由来のSMCS（天然アミノ酸）を関与成分とし、「コレステロールが気になる方に適する」保健用途の表示ができる特定保健用食品が許可されている。</p>
成分の特性・品質	
主な成分・性質	・グルコシノレート類 (101) (102) ( <a href="#">PMID:22857862</a> )、アントシアニン類 ( <a href="#">PMID:24128451</a> )、クロロゲン酸、カフェー酸、ゴイトリンなどを含む (103) ( <a href="#">PMID:28208739</a> )。

分析法

・キャベツに含まれるグルコシノレート類をLC-MSによって分析した報告がある(101) ([PMID:22857862](#))。

有効性

循環器・呼吸器	調べた文献の中に見当たらない。
消化系・肝臓	調べた文献の中に見当たらない。
糖尿病・内分泌	調べた文献の中に見当たらない。
生殖・泌尿器	調べた文献の中に見当たらない。
ヒト で の 評 価	脳・神経・感覚器 調べた文献の中に見当たらない。
	<b>メタ分析</b> ・2013年5月までを対象に5つのデータベースで検索できた観察研究6報(コホート研究1報、症例対照研究5報)について検討したメタ分析において、キャベツの摂取は大腸腫瘍発生リスクと関連が認められなかった ( <a href="#">PMID:24341734</a> )。 ・2012年4月までを対象に1つのデータベースで検索できた観察研究9報(コホート研究1報、症例対照研究8報)について検討したメタ分析において、キャベツの摂取は大腸がん発症リスクの低下と関連が認められたが、試験によるばらつきが大きかった ( <a href="#">PMID:23211939</a> )。
	骨・筋肉 調べた文献の中に見当たらない。
	発育・成長 調べた文献の中に見当たらない。
	肥満 調べた文献の中に見当たらない。
	その他 調べた文献の中に見当たらない。
参考文献	(91) Registry of Toxic Effects of Chemical Substances (RTECS). (22) メディカルハーブ安全性ハンドブック 第1版 東京堂出版 林真一郎ら 監訳 (30) 「医薬品の範囲に関する基準」(別添2、別添3、一部改正について) (101) 日本食生活学会誌. 2014;25(2):121-30. (102) 食と緑の科学. 2006;60:63-6. <a href="#">(PMID:22857862) J Chromatogr B Analyt Technol Biomed Life Sci. 2012 Aug 15;903:171-6.</a> <a href="#">(PMID:24128451) Food Chem. 2014 Feb 15;145:77-85.</a> <a href="#">(PMID:6692645) Clin Pharmacol Ther. 1984 Feb;35(2):161-9.</a> <a href="#">(PMID:23211939) Ann Oncol. 2013 Apr;24(4):1079-87.</a> <a href="#">(PMID:23679348) Cancer Sci. 2013 Aug;104(8):1067-73.</a> <a href="#">(PMID:24341734) Nutr Cancer. 2014;66(1):128-39.</a> <a href="#">(PMID:8537569) J Am Diet Assoc. 1996 Jan;96(1):46-8.</a> (103) Dr. Duke's Phytochemical and Ethnobotanical Databases <a href="#">(PMID:28208739) Molecules. 2017 Feb; 22(2): 252.</a>